

砂名の ベトナムに乾杯

第11回 奥さまはベトナム人

2015年、Standing BAR【日本酒で乾杯!】の立ち上げでは、ベトナム在住の進出支援のコンサルタントさんはじめ、今でもお世話になっている不動産屋さん、物件の賃貸だけでなくさまざまなサポートをしてくださっている「牛めし屋」さん、工務店さん、リーチインショーケースの購入をサポートくださった食材屋さんなど、多くの方にお世話になった。そしてコンサルタントさん以外は皆さま、奥様はベトナム人だった。日本を離れてベトナムでやって行こう!という方たちが、言葉も習慣も違う外国の地で、公私ともに支えてくれる女性と一緒にいるのは、ごくごく自然なことだと思う。

独身、単身赴任、夜の街で魅惑的な女性たちにメロメロ、砂漠に撒いた水のごとく金も精根も吸い取られ、挙句の果ては金の切れ目が縁の切れ目…という「ベトナムあるある」話をみんな面白がるので、そちらばかりがクローズアップされがちだが。実際はしっかりものの女房を娶り(かなり歳の差がある場合が多い)、円満な家庭を築いている方も多い。そもそも国際結婚というだけで大変なんだそう。まず男性側は独身証明書なるものを準備しなくてはならない。結婚の意志を問診で確認される。健康診断も必要だったと思う(最近はかなり緩くなったようだが)。

結婚式には親族一同を招待し、式に参列できなかった親族には挨拶まわりの行脚の旅が待っている。二度ほど結婚式の



ある結婚式場の、ローカルの結婚式のようす

披露宴にお呼ばれしたことがある。昨今の都会でのトレンドは、オシャレな結婚式場で披露宴を行うスタイルが多いようだ。スライドショーや動画を観たり、檀上の両家の両親と花束贈呈や乾杯、シャンパンタワーにケーキ入刀。ベトナム料理が出て最後は必ず鍋。その間、新郎新婦は招待客に酌をしつつ挨拶に周る。飲み物はソフトドリンクかビールぐらいだ。新郎が日本から呼び寄せる親族は限られていて、友人や職場の人間合わせてもせいぜい20人強ぐらい。一方ベトナム人新婦の方は、親族、親戚、親戚の友人、自身の友人、職場の人間と、軽く100名は超える。結婚式からすでに、数で牛耳られた形になる。御祝儀は招待カードの入った封筒にお金を入れ、受付にある「アンケート箱」のような箱に入れる。だいたい日本人は50万vndから200万vndぐらいを入れているようだ。引き出物はない。

そして宴もたけなわ。お定まりのカラオケ大会が始まる。田舎のテント開場で行

われる披露宴だと開始は一時間ぐらい遅れ、終わりは三三五五、いつ終わったかも判然としないのが通例のようだが。都会の結婚式場の場合は、始まりも終わりも比較的時間通りに進行される。

結婚後。旦那様が外で飲んでいると、ひっきりなしに奥様から電話やメールが入ってくる。まるでストーカーのようだが。これが、ベトナムの奥様方の「愛の標準装備」なのだそう。「日本はどちらかと言うと放っておいてくれるが、ある意味クール過ぎて…」このべつたりの愛情表現が「こんなに愛されて良いのか?」と勘違いするぐらい嬉しい…と話す男性もいた。

ともかくにも、ベトナム女性は強い。ときどき不埒な旅にうつつを抜かして、一緒に撮った写真を友人や仲間内に拡散されている殿方がいらっしやるのを散見するが。どうぞご用心なさってくださいませ。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学文学部卒業。2015年よりホーチミン市にて、日本酒の普及を目的に、ベトナムで初の日本酒専門店、角打ち【日本酒で乾杯!】を立ち上げる。東京で舞台写真の撮影や舞台制作に従事する一方で、2001年より「月森砂名」名で、小説やフォトアートの作家活動を行う。2009年設立のNPO法人 Layer Boxにて、日本の伝統文化・伝統産業について、大学、高校、専門学校などと、プロモーションビデオ、3D、CGなどでコンテンツ制作を行い、世界に発信する事業に取り組む。